

村野 万奈  
MURANO Mana



とうめいなともしび  
綿布、アクリル、色鉛筆



あなたとかさなる  
綿布、アクリル、色鉛筆

Where are you going?

「Where are you going?」この言葉をテーマに私は制作を行っている。

2018年に移民や難民問題が活発で報道をよく目にした。その時に、「私たちはどこに行き、どこへ帰るのでしょうか」と考えた。移民や難民問題だけではなく、もっと身近な問題にもこの考えが通ずるものだと感じた。幽霊のように彷徨いながら帰る場所、私たちにとっての地を探している。自分の帰る場所を探していくうちに孤独や人との距離感について考えるようになった。

そうして考えたことや私の気になった言葉を日記のようなものとしてドローイングノートに描いていった。そのドローイングノートは、絵や文字、コラージュ、刺繍など様々な表現で制作した。描き溜めていくうちに、1つのノートの内容が物語に繋がり、1冊の本が出来上がった。

このノートの中から選び出したドローイングを基にして大きな画面、2、3m程度のサイズの布に描き、垂れ幕状に吊し、旗のように掲げる制作と展示をしている。大きなサイズの作品へと表現を展開させているのは、描かれたものの存在感と旗のように立ち上げた画面空間など、作品に包まれながら鑑賞者自身もその場に居合わせる1人であるようにするためだ。

このテーマで、今まで「shelter」「分け合う」「集団から個へ」「旅立ち」を制作していった。

『あなたとかさなる』

対話、分かち合うことをテーマにした作品だ。2020年にアメリカで警察官が銃で黒人を射殺されたことに起きた抗議デモや新型コロナウイルスがアジアの国で発症したことからアジア人差別。また、コロナ禍の失業率で認識されることになったジェンダー不平等の問題。再び人種差別やジェンダーの問題が浮き上がった年だった。

この問題を自分の中で消化したときに、数学の集合をわかりやすく図式化したベン図を思い出した。ベン図の円を人として円と円が重なる場所、2つの集合の共通部分のように一部分でも重なって理解することが現在できることだと感じた。「あなたの全ては理解するのは難しいけど受け入れたい」という希望のような考えができてきた。そのようなわかりあえる場所、対話する場所を作るために作品を制作した。

『とうめいなともしび』

この作品が制作されるまでに、ドローイングノートでは童話をモチーフに気になった部分を描いた。

王子様とお姫様が登場し、お姫様が魔女に魔法にかけられ眠りにつくか毒の入った果実を食べて眠りつく。そこで王子様がやってきて眠っているお姫様にキスをする。王子様のキスで目覚めるお姫様。

この状況にとっても興味を持った。王子が現れなければ目を覚ますことはない。自分の意思で眠ったわけでもない、勝手に眠らされて勝手に起こされる状況が生きたまま死んでいるような感じがした。自分の意思では助けも声を上げることができない。童話の中だけではなくもっと身近にあるように思えた。その状況を作品にした。